

教科名【家庭科】

児童の実態

- ・製作に対して意欲はあるが、細かい作業を苦手とする児童の中には、意欲的に取り組めない児童もいる。
- ・基礎的な知識・技能には個人差があり、学習を積み重ねる中で身に付けている段階である。
- ・調理実習に対して意欲的に取り組んでいる児童が多い。準備や後片付けも協力して行っている。学校で経験したことを家庭でもやってみようとする児童もいる。「切る」作業には個人差が大きく見られ、授業で初めて包丁を使う児童もいる。
- ・自分の生活や家庭生活について現状を見つめ直したり、改善策を考えたりすることはできるが、日常で実践するところまでは難しい。

授業革新推進に向けて

- ・実習の際は、作業を行う前に、作業手順や完成形を具体的にイメージができるよう学習カード等の教材・教具を工夫する。
- ・これまでの生活を振り返り、友達と伝え合ったり発表したりする活動などを通し、意識をして自分の生活改善に取り組むことができるようにする。
- ・衣・食・住に関し、家庭の一員としての仕事の分担、実践において、家庭との連携を図っていく。また、家庭の負担にならないように配慮した課題を設定する。